

第41回 中高校生の吃音のつどい(サマーキャンプ)

8月9日(土)、10日(日)、小学生5人、高校生5人、ご両親8人、スタッフ10人の計28名が参加。千葉勝浦の民宿、坂下にて開催。サマーキャンプには色々と思いが深い。今回も一段とそれを感じ、やはりサマーキャンプは特別なつどいだと感じた。社会人になったら、つどいへの参加は難しいかと思っていた。確かに体的にしんどい時はあるし時間も余裕がある訳ではない。さらに仕事をやっていて吃音のせいで落ち込む事もある。普段苦しめられてる吃音に休みの日まで関わらなくてはならないなんて馬鹿らしい。正直そういう思いもある。しかし、土日を無駄に過ごすくらいならつどいで一人でも多くの参加者(スタッフ含めだが)の力になりたい、という気持ちもある。さらに言えば吃音者として生まれたからには、吃音者でも楽しく豊かな人生を送れるんだという事を証明したい。もっと自信を持ち、生きて欲しい。何も悪い事をしてる訳では無いのだから。自分自身に言い聞かせるようだが、そう思うのだ。今回のリーダーは自分にとって本当に良い経験になりました。(リーダー;江原智弥、小澤隆、中田周作)

A.Kさん(高1)

ワタシは、嫌な事があると失敗するのが怖くて行動する前から逃げていました。吃音の事ですごく悩んでいる時にお母さんに言われました。「これから社会に出て行くにつれ、話さなければならない機会が増えるし、今みたいに逃げてばかりは出来ないんだよ。うまく話せなくなったらやって事、頑張った事に意味があるんだよ。」と言われました。自分でも分かっているんだけど、なかなかその勇気が出ずお母さんの言われた事に対して反発してばかりでした。「私の苦しみや痛みとか知らないくせに簡単に言うなよ。」とかいつも心の中で思っていました。でも、お母さんはお母さんなりに吃音についての本を買ったり、言友会に聞いたり、誌報を問い合わせたり、担任の先生や保健室の先生に吃音について知ってもらおうと、手紙を書いたり本を見せたりして工夫していました。私のためにここまでしてくれて本当にうれしかったです。だから、嫌なことがあってそれを逃げずに乗り越えた時、やっとお母さんの言った言葉の意味が分かりました。「自分は頑張ったんだ。」とその時自分をほめました。いつかお母さんみたいに強い心で人を励ましたり支えられるような人になりたいです。

まだまだ辛いこと苦しいことがたくさんあると思うけれど、一つ一つ自分なりに乗り越えていきたいです。また、周りの人に対して感謝の気持ちを忘れずに生活していきたいです。サマーキャンプに参加して本当に良かったです。機会があれば積極的につどいに参加したいです。

K.Kさん(高1女子のお母さん)

6月の新宿御苑に続き2回目の参加でした。今回はどのようなものなのか全く想像がつかなかったもので、小学生の行事の前みたいにワクワク ドキドキと楽しいようで不安なようでという感じで当日を迎えました。前回お会いしたスタッフの方々がいて千葉駅で合流した時はホッとしました。東京駅集合グループが来るまでトランプをしたりと、カチカチの私達親子を暖かい雰囲気の中で包んでくれました。

学習会や食事やゲーム、花火などいつも感じられるのはスタッフの方の暖かさやまとまりや工夫です。子供達や親に対しこんなにも沢山のスタッフの方が仕事を調整し、貴重な時間を参加者のために割いて下さったことに感謝の気持ちで一杯です。娘は「つどい」に参加する度に変わっていくのが分かります。この会やつどいに参加出来たことを本当にラッキーだと思います。本人も親も。

5ヶ月前までは娘は娘で、私は私でそれぞれがそれぞれの悩みを抱え絶望の淵にいました。そんな私達を救ってくれたもの、それは「言葉」でした。それまで吃音関係の本を梓も私も読んだりはしましたが、それはそれで良かったのですが、やはり活字として入って来るだけでした。つどいに参加し、目の前にいる

人から語られる「言葉」は娘や私の凍りついた心を溶かしていってくれました。話し方の技法ではなく心を込めた「言葉」の大切さをこの会で初めて知りました。

人にはこれといった苦難もなく平凡に人生を送る人と、これでもかこれでもかと、次々と試練のある人とがいると思う。でもそんな時は思うのです。この人間ならきっと乗り越えられるからと試すのに選ばれたのかも。ならば挑戦してやろうじゃないかと。今まで出逢った人これから出逢う人の力を借りて挑戦してみようと思う。

E.Oさん(小3、初参加)

私はどもりの1人です。私は他にもどもりの人がいるのかと今までずっと心配でした。でもキャンプで他にもいるんだなと実感しました。キャンプでは、同じ3年生の友達もできてとても楽しかったです。それから、マンツーマンのお話の時、スタッフの佐藤さんとペアになりました。『もしお薬があつてどもりを治せるとしたら飲む？』と聞かれました。私は『お薬は飲まない。なぜならどもりは私の一部で個性だから、なくなると自分じゃない気がするから』と思いました。11月のつどいにもまた参加したいと思います。これからもよろしくお願いします。

E.Oさん(小5、初参加)

私は吃音ではありません。だからキャンプで他の友達と仲良くなれるか心配していました。でもスタッフの方々には吃音ではない私にもとても優しくしてくれました。私の妹には吃音があります。でも私は妹が吃音であることをあまり気にしていませんでした。でもこのキャンプに参加して改めて吃音の事を考えることができました。このキャンプで私と妹はSちゃんという友達と出会うことができました。Sちゃんと私達は同じ部屋で過ごしました。とても短い時間でしたが、Sちゃんがいた事で楽しい時間を過ごすことができました。Sちゃんやスタッフの方々に感謝したいと思います。どうもありがとうございました。

M.Oさん(小3女子のお母さん)

吃音について、これだけ徹底的に話ができることはすばらしいと思います。自分の一番弱い所(かもしれない)吃音をさらけ出して、ありのままでいられる心地よさ！日頃誰にも言えない悩みを共有できる安堵感！初めは少し恥ずかしくてもだんだん仲良しになれて、皆さんとても楽しかったのではないのでしょうか。親同士の話し合いでは、子供の気持ちに寄り添いたいと願う皆さんの熱い愛情に感動しました。吃音があったってここに来られているお母さんお父さんがいれば大丈夫！こんなにあたたかい家庭に守られていれば大丈夫！と思いました。我が子も含めてこのつどいに参加した全ての方々が、吃音によって自分の幅を狭めず自分の夢に向かって大きく羽ばたいて欲しいと心から願っています。スタッフの皆さん、暑い中、本当にありがとうございました。次回のつどいを楽しみにしています。

M.Yさん(小3男子のお母さん)

今回は息子、夫、私の3人で参加させて頂きました。家族での参加だったので当然部屋は同室だと思っていたら、なんと全員バラバラ！初対面のお母さん方との4人部屋で、最初は少し緊張しましたが、結果を言えば本当に良かったです。何よりも吃音児の母という最大の共通点があるのですから、話は尽きることなく遅くまで話しこんでしまいました。

夜のマンツーマンでの相談会では、スタッフの江原智弥さんから言友会に参加したきっかけを伺い、「素晴らしい人との出会い」が如何にその人に大きな影響を与えるかということ強く感じました。息子自身も私達親も、言友会への参加という1歩を踏み出した時から新しい世界が広がりました。沢山の仲間と知り合えたことが何より嬉しいです。

キャンプの中で、「吃音が絶対に治るといふ薬があったら飲むか??」という問いかけがありました。帰りの電車の中で息子に聞いてみたところ、最初はふざけた感じで「飲むに決まってるじゃん！いや、やっぱり飲まない！飲む、飲まない・・・。」などと言っていたのですが、最後にはっきりと「僕は飲まないと思う。」と答えました。理由を聞くと「吃音は僕のチャームポイントだから。」「チャームポイント」なんていう言葉、よく知っているなあと思ったら、なんと以前参加したつどいの時に佐藤さんから言われた言葉なんだそうです。息子の心の中に、ちゃんと残っていたんですね。吃音ってちょっと不便でいやなものだけど、息子の中のほんの一部のこと。吃音である自分を否定せず、しっかり向き合って認めているんだなあとなんとなく嬉しかったです。

西田 あゆみ(スタッフ、大学3年)

私は今回吃音キャンプに初めて参加しました。スタッフとして参加し、小学生グループの皆さんと楽しい2日間を過ごせました。海に行つて貝を拾い、お面作りをしたこと、夜、海で花火をしたこと、初日にしたゲーム、どれも楽しかったです。話合いでは今まで知らなかった様な、色々な事を知ることができました。良い体験ができたと思います。

ここで、今回のキャンプ(以前から)で思ったことを書きたいと思います。私は吃音ではありません。吃音のことを知つたのがいつだったかは覚えていませんが、随分前から知っていました。おそらく、父(埼玉県上尾西小学校ことばの教室 西田立郎)の仕事関係で知つたのでしょう。つどいを知つたのも、父の仕事場でした。その時、佐藤さんと芳枝ちゃんに出会いました。

私は吃音ではないので、「吃音の方の気持ち分かる」とは言えません。考えることは出来ませんが、その思いも本人が考える思い、感じている思いとは違ふと思います。それでも私は、吃音の方と普通に話がしたいです。「どもつたとしても気にせず話して欲しい」と言つてもなかなか話せないと思います。どもつた事を馬鹿にする人や笑う人もいます。けれど、そうじゃない人も沢山います。私は楽しく話がしたいです。話をして笑い合えたら、とても嬉しいです。